

ENHAVO

岩内に生きてー桜居甚吉さん、新聞「私の中の歴史」に登場

S-ro SAKURAI Ĵinkiĉi montris sian rakonton sur la ĵurnalo (Hokkajdoo-Ŝinbun). La titolo estas "Historio en mi-Vivi en Iŭanai" 2

八雲の細井末夫氏、那須栄氏訪問記

S-ro Hoŝida kaj s-ro Mijazaŭa vizitis al samideanoj, kiuj loĝas en urbeto-Jakumo 4

寄贈雑誌 Donacitaj Gazetoj 7

読書 Legindaĵo 8

おめでとう 小坂清行氏四国エスぺラント連盟事務局長に就任

Gratulon! s-ro Kosaka fariĝis sekretario de Ŝikoku Esperanto Ligo (SEL) 10

おめでとう ドイ・ヒロカズ氏、土居智恵子氏が小坂猪二賞受賞

Gratulon! s-ro Doi-Hirokazu kaj s-ino Doi-Ĉieko ricevis La Premion Osaka 11

訂正 Korektoj 12

投稿エッセイ Kontribuita eseo 12

編集者への質問 Demando al redakino 13

訃報 Nekrogo 15

S-ro 酒井重(ただす)について、その他 Pri nia pioniro SAKAI Tadasu, k. a. 15

苫小牧エスぺラント会のザメンホフ祭 La Zamenhofa festo '92 en Tomakomai 15

会費納入のお願い Bonvolu pagi kotizon 16

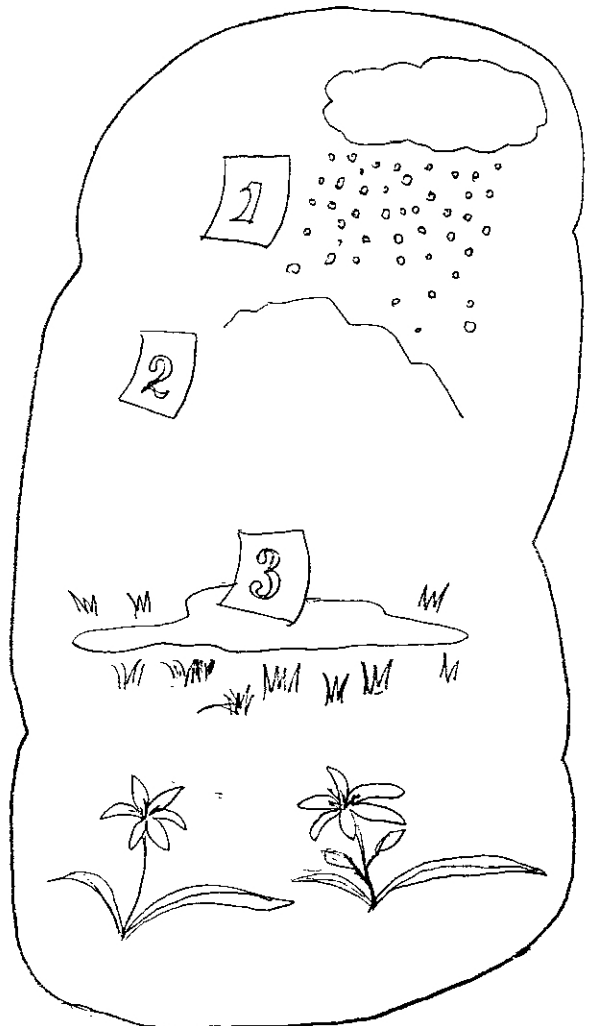
近況報告 函館の岩井正久氏 Novaĵo de s-ro Iwai 16

編集部から、お願いとお詫び

Peto kaj pardonpeto
el redakitejo

2月に発行の予定が、編集者の風邪で、3月も過ぎてしまい大変もうしわけありません。

今後とも、記事についての誤り指摘や要望をどしどしお寄せ願います。もちろん記事の投稿もお待ちしております。



北海道新聞夕刊「私の中の歴史」に登場

Nia pioniro, S-ro SAKURAI Jinkiĉi en Iŭanai, montris sian rakonton sur la vespera paĝo de la Ĵurnalo Hokkajdo (Hokkajdoo-Sinbun) en oktobro 1992. Apud lia nomo oni legis ununuran titolon "esperantisto". Li estas komercisto 88-jara kaj malnova esp-isto jam de 15-jara aĝo. En la 10-era seria rakonto kun la titolo "Historio en mi — Vivi en Iŭanai" li pri-skribis siajn diversajn agadojn inkluzive Espeprantajn.

1992年10月19日～29日の間、道新夕刊(全道版)に桜居さんがエスペ란チストの肩書きで登場。去る9月、HEL60周年記念大会で永年の同志として表彰された18人のなかでも最年長、88年の人生のなかでの多方面の活動を10回の連載記事で読ませてくれた。小樽商業での2本杖スキーの時代、ニシン漁と岩内の盛衰、「生まれ出づる悩み」の画家木田金次郎やエスペ란チストでもあった俳人泉天郎など多くの人との交流。本業の呉服店のほかにも町会議員、ロータリークラブ、ユネスコ協会等広範囲の活動。

肩書きにあるエスペ란チスト(記事では一チスト)としての活動は連載10回のうち1、5、8、10回目に出てくるが、大正年間(七十年前)のエスペラント学習の様子など今ではほとんど聞けない話も出てくる。我々後輩としては、もう少し聞かせて頂きたいこともあるのでなかろうか、という気がする。

「自分の人生を振り返ってみると、結果として、国際平和と奉仕活動に関係することをしてきたんだな、と気づきました。」という言葉が印象に残った。(苫小牧 星田 淳)



オランダ・ロッテルダムの世界エスペラント連盟本部の前で(中央の黒い服が桜居さん)

「世界は広い」と痛感

昭和四十八年(一九七二年)台湾へ旅行したのを皮切りに、七十九歳の五十九年までに二十二回、五十三カ国を訪れました。分

裂した旧ソ連には何回も行っていますから、いま数えろと六十カ国を超えていることになりませんか。

「自分は井の中の蛙だ。世界は広い」と痛感したのは四十九年夏、西ドイツのハンブルクで開かれたエスペランティスト大会に出席した時でした。五十カ国から二千人が集まりました。日本からは十二、三人、北海道勢は

私と札幌の相沢治夫さんの二人だけでした。各国のエスペランティストと交流して楽しかったのと、その足でフランス、イギリスなど五カ国ほど回って、目新しいものを見る楽しみに病みつきになってしまったんです。

交を深めました。英語は不自由しませんでしたから。

一番印象深い旧ソ連

五十四年、南フランスから帰途にパリのユネスコ本部を訪れ、広報部長の服部英二さんに岩内にも協会ができたことを伝え、「日本に帰る時があったら、ぜひ岩内へ」

岩内に生ききて

⑩

53カ国訪れ楽しかった交流

ほとんどが団とお誘いしておいたところ、体ツアアでした。二年後、家族と一緒に遊びに、観光地を見に来てくれたんです。現在は広報局特別事業部長に昇進して歩くだけでないです。日本人では唯一の高級職員です。

訪れる先々

で又通しているエスペランティストと会ったり、アメリカやオランダ、メキシコ、リオデジャネイロなどではロータリークラブの例に出席して親

した。五十年の最初の訪ソの時、外国人が入れる都市は十一カ所に限られていました



昭和51年、エジプト・ギザのピラミッドを背景に亡き妻雪子と

中国で略字問題論議

五十五年、日本エスペラン

ト学会親善訪中団員として北京、上海、武漢などを訪れ、大

このころは毎日二時間の散歩を欠かさず、新聞は三紙を熟読して、心身の健康に気を付けています。またまた、岩内の歩みを見続けたいですね。

(聞き手 伊藤 直紀記者)

おわり

が、行く度に新しい発見があるんです。現在は共産党が消滅してタガが外れたように異民族の共和国が統々と独立を宣言しています。殺物でも石油でもいくらか多く産出しても中央に吸い上げられていたんですから、その暴政のツケが回ってきたと言えるでしょう。

「漢字の簡略化を双方で別々に行なったので、同じ漢字文化国同士なのに、意味が通じなくなりました。双方で

八雲の Izolitaj samideanoj 訪問記

—初めて出会った Idisto との対話も

苫小牧 星田 淳

Ni jam informis en p.6 de novembro-decembra numero de Heroldo de HEL, ke nia pioniro S-ro Hosoi en Jakumo(Yakumo) esprimis bonvolon donaci sian kolekton de Revuo Orienta, la organo de Japana Esperanto-Instituto(JEI). Por ricevi ĝin veturis komitatanoj Mijazaŭa kaj Hoŝida (la raportanto) la 23-an de decembro. Ĉe S-ro Hosoi ni aŭskultis lian historian rakonton kaj ricevis lian karan donacon kun danko. Kaplante tiun okazon ni vizitis ankaŭ alian samideanon, S-ron Nasu, la estro de Eduka Komisiono en Jakumo. Kvankam li ne vizitas hokkajdan esperantujon lastatempe, li longe tenas sian korespondadon kun esperantistoj el (eks-)Jugoslavio, Hungario kaj Nov-zelando. En februaro '92 li havis ŝancon viziti Nov-zelandon kaj sukcesis viziti sian korespondantinon. Ambaŭ niaj vizititoj konis Pastron Robert Juigner en Katolika Preĝejo de Jakumo. Li estas ununura idisto en Hokkajdo, kiu iam korespondis kun S-ro Aizawa. Pastro Juigner parolis per bona japana lingvo, ke li nun preskaŭ nenion faras per Ido, kvankam li provis kompili Japan-Idan Vortaron antaŭ multaj(dekelkaj?) jaroj. "Ido helpas min lerni la portugalan lingvon por kompreni kun brazilanoj" li diris. La preĝejon vizitas multaj japanidaj brazilanoj, kiuj laboras en fabriko de Nissan-Aŭto en Jakumo. Hazarde estis lia 75-jara nasktago. Brazilajn gratulantojn li salutis "Obligado" (=dankon; en la portugala).

去る9月のHEL60周年記念大会で表彰者の1人だったS-ro細井末夫(八雲在住)から9月末手紙を受け取った。内容は Heroldo de HEL のnov.-dec.号(p6)のとおり。寄贈されるR.O.を受け取る予定はやや遅れて12月23日、八戸からフェリーで苫小牧に着いたS-ro宮沢の車に星田も同乗して36号線を西へ向かったのは、朝9時に近い頃だった。

昼頃八雲町に入り、郷土資料館の前に車を止め雪を踏んですぐとなりのS-ro細井宅へ。2年前('90)腎臓結石の手術で一時危なかった(臨死体験もあった)がその後だんだん回復しているとのことでお元気そうに見受けられた。

鉄道クラブであった札幌で最初のエスペラント大会に出席した、相沢さん、木村さんも見えていた—とのこと。(記録で見ると1934年札幌の鉄道集会所で開いた第2回北海道大会らしい) 当時の話を色々伺った。

「札幌師範学校5年生のとき、恒例の内地旅行のための校医の診察で肺の異常が見つかり休学して家に(岩見沢のそば)帰った—二つ年上の姉が「後藤静香先生のファン」で毎月希望社の「エスペラント」がきており、それでエスペラントを勉強した—健康回復後まず幾春別小学校に勤めたが1年ほどで師範時代の恩師の誘いがあった昭和17年八雲に移り現在に至った—」

R.O.は段ボールに整理されていたのを車に

運んだが、古い療養時代のものは菌の感染を恐れてしまい込んだままとのことで、今回は受け取れなかった。

辞去してもう1人のsamideano, S-ro 那須栄を訪問。酪農家であり且つ八雲町教育委員長の要職にある。ずいぶん前函館であった道大会でお見掛けした(2回出席とのこと)位の記憶しかないが話を聞いて驚いた。我々が知らないだけで、エスペ란ティストとしての活動がかなり行われていたのだ。

Jen S-ro Nasu parolas--.

*古い戦争後ほどない頃、公民館講座でエスペラントがあり細井先生が指導した。私もそこで習った。由仁から古いエスペ란ティスト(S-ro 新田為男らしい)が見えていた。

*ハンガリーの農協組合長と文通していた。この頃の社会変動で農協も倒産の危機にあり、日本の農産物の価格形成はどうなっているか、ハウス栽培等大きくやりたいが器材は高く農産物は安い、等の悩みに苦労して返事を出した。タネの注文も受けて横浜の種苗会社と連絡した結果、その会社がハンガリーの近いところに営業所を開くことになった。

*ニュージーランド北島に65才のkorespondantinoがいるが、花やキーウィーを作って、景気がいいらしい。2月('92年)団体旅行で行ったとき知らせたら、空港に迎えにきてくれた。

*ユーゴスラビアの大地震(スコピエか)の後で向こうから「耐震建築について話が聞きたい」と講師として丹下健三氏を希望しての依頼があった。まさかムリとは思ったが一応知らせて置いたらデンマークで学会があったついでにユーゴでの講演が実現した。もう十何年か前のことだが。

*教育委員長をやっていると社会教育の全国集会等は毎年8月末なので、日本エスペラント大会には出たくとも出られない--。

S-ro j 細井、那須の2人とも道内唯1人のIdisto、八雲カトリック教会の神父を知っていた。あのボーフロン、クーチュラの策謀による1908年のIdo分裂から85年、今はどんな状態だろうか、と最後に我々は教会へ向かう。

この神父は以前S-ro(故)相沢治雄と文通したことがある。Idoで来た文を見当つけてエスペラント文に訳し、相沢さんに送ったのを思い出す。

その人、Pastor Robert Juigner はフランス人、頭髮も、それより多いあご髭も皆白く、好々爺の感じで、二十何年かの日本生活で慣れた達者な日本語で質問に答えてくれた。

「イードは今は何もしていません、前は子ども達に教えて文通させてみたこともありましたが、あまり使えないし--。辞書を作ろうと、これに(と、国語辞典を見せて)イードの言葉をつけてみたけれど、途中で止めました。」

「イードやる人はたいいもとエスペラントをやった人ですけど私は違います。初めからこれを勉強したんです。今使ってはいないけれど、ポルトガル語を覚えるのに役に立っていますよ。ブラジル人がこの頃たくさん来てますから。ポルトガル語を習ったことはないけれど、イードから見当つくんです--」

町内にある日産自動車工場で働いている日系のブラジル人が、この日もたくさん来ていた。見当がつく、という点ではエスペラントでも同様だろう。中断したイード・日本語辞典(ガリ版)の一部分と、年3回ながら今も出ている機関誌 PROGRESO(その persisteco には感服!)を記念に戴きお別れした。偶然にもこの日が神父の75才の誕生日、ブラジル人の祝詞に「Obrigado!」と答えるのが聞こえた。(=dankon)

使う人がなくなれば死語化するのはイードやアイヌ語だけか? 考えながら八雲を後にした。



S-ro Hošida

S-ro kaj s-ino Hosoi



S-ro Nasu

S-ro Hošida

S-ro Mijazaŭa

寄贈雑誌 Donacitaj Gazetoj

『センター通信』 162. 名古屋エスペラントセンター
森田明「興味津々の中国、刺激的中国世界語者」(第5回太平洋地区世界語大会) / Liaoning Esperanto-Asocio からの手紙 / 「コレル教授の言語文化論」(Resumo de "Kontraudiroj de la 'Plena Analiza Gramatiko' al 'La Fundamenta Gramatiko'" 名古屋大学総合言語センター言語文化論集) 第12巻第1号 1990) / (その他)

『センター通信』 163. 名古屋エスペラントセンター
Kolero, Folkmaro「コレル教授の言語文化論 Kontraudiroj de la "Plena Analiza Gramatiko" al "La Fundamenta Gramatiko"」 / イカイヨシカズ「名古屋エスペラントセンターの蔵書より」 / (その他)

Mejlstono. 115. Organo de Sendai Esperanto-Societo.
「仙台エスペラント会1993年度総会・ザメンホフ祭のお知らせ」 / 「東北エスペラント連盟新会長に佐藤勝一氏」 / 日本大会後記・続編 / (その他)

Novajoj Tamtamas: Internacia Gazeto de Jokohama Esperanto-Rondo. 75.
"Usono estu la socio sen pafiloj!" / "La 6a Internacia Konferenco de Sennukleaj Municipoj Okazis en Jokohamo." / "Sonervojago en Eŭropo de la familio Hirose: en Svislando."

La Tamtamo: La Organo de Jokohama Esperanto-Rondo. 230.
「エスペラントの創始者ザメンホフ生誕133周年の第22回神奈川県ザメンホフ祭に参加しよう」 / (その他)

Lernantoj: Lernogazeto de Jokohama Esperanto-Rondo. Novembro 1992.
「中国友好都市のエスペラントを訪ねる旅」 / ドイ・ヒロカズ「生涯学習とエスペラント ハマロンド学習会受講者へのアンケートから」 / 山崎勝、キム・ソカ「カンボジア通信5」 / (その他)

この他、Ponteto (Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo)、La Movado (Kansaja Ligo de Esperanto)をいただいています。また、国際文化工房から旅行団参加募集の広告をいただきましたが、応募期間が過ぎていたので掲載しません。申し訳ありません。また同工房からエスペラント書籍の「宅配便会員」募集、週例会参加の呼びかけの広告もいただいています。関心のある方は連盟事務局か国際文化工房にお問い合わせください(〒132 東京都江戸川区平井6丁目30-3)。

[切替英雄]

読書 Legindaĵo

去る11月1日、国際文化工房より、次の図書が発行された。

Iŭamura, Noboru. Naskiĝtago: Virino kun Keloido. Trad. Miĉio Ogura.
Tokio: Internacia Kultura Laborejo, 1992. 13pp.

著者の岩村昇氏は、鳥取大学医学部での研究生活から、ネパールの医療奉仕活動に転じられた方である。現在は、奥様とともに兵庫県にお住いで、奉仕活動に従事しておられる。著書には次のようなものがある。

岩村昇

『共に生きるために アジアの医療と平和』新教出版社 1984年 238pp.

岩村昇・岩村史子

『山の上にある病院 ネパールに使いして』新教出版社 1965年 264pp.

『ネパール通信』新教出版社 1968年 273pp.

『わがふるさとネパール ネパール通信2』新教出版社 1970年 290pp.

訳者の小倉道雄氏は鳥取大学医学部生化学教室の教授であり、最近まで医学部長の任にあられた。学部長の重い職責については、ヘロルド前号小西岳氏の記事を参照されたい。小倉氏は私の鳥取大学在任中、最も深い印象を残された方のお一人である。髭がよくお似合いの、古風なジェントルマンであった。

戯曲「誕生日 ケロイドの女」は、戦争の痛手を受けた青年たちを描いた小さな物語である。特に戦後生れの会員には是非読んでいただきたい。

国際文化工房のアドレスは次のとおりである。

〒132 東京都江戸川区平井六丁目30-3 国際文化工房
労をいとわず購入し、読もう！

(岩村昇氏の近況と著書については、このたび小倉道雄氏より教えられた。)

Libreto estis eldonita de Internacia Kultura Laborejo en Tokio la 1-an de Novembro.

Iŭamura, Noboru. Naskiĝtago: Virino kun Keloido. Trad. Miĉio Ogura.
Tokio: Internacia Kultura Laborejo, 1992. 13pp.

La verkinto Noboru Iŭamura studis medicinon en Medicina Faklutato de Universitato de Tottori, kaj turnis sian vivon al kuracado en Nepalo. Nun li loĝas kun la edzino en Hyogo Gubernio kaj faras socialan servon. Jenaj estas liaj verkaĵoj (japanaj).

Iŭamura, Noboru.

Por Vivi Kune: Kuracado kaj Paco en Azio. Tokio: Sinkyoo Syuppannya, 1984. 238pp.

Iŭamura, Noboru, kaj Humiko Iŭamura.

Malsanejo sur Monto: Sendite de Dio al Nepalo. Tokio: Sinkyoo Syuppansya, 1965. 264pp.

Leteroj de Nepalo. Tokio: Sinkyoo Syuppansya, 1968. 273pp.

Mia Hejmloko, Nepalo: Leteroj de Nepalo 2. Tokio: Sinkyoo Syuppansya, 1970. 290pp.

La tradukinto Miĉio Ogura estas profesoro de Fakⁿo de Bioĥemio, Medicinⁿ Fa-
kultato, Universitato de Tottori, kaj estis la estro de la fakultato ĝis la
lasta tempo. Se vi ne konas, per kiel grava respondeco la estro de fakultato
estas ŝargita, vidu en la lasta numero de Heroldo de HEL artikolon por
festi estriĝon de Konisi-Gaku. D-ro Ogura estis unu el tiuj, kies grandaj
impresoj restas en mia memoro pri Tottori ankoraŭ. Li portis tre konvenajn
lipharojn kaj estis bela kaj antikve-ŝajna ĝentlemano.

En la dramo "Naskiĝtago: Virino kun Keloido", ĝejnuloj, kiuj estis vundi-
taj en la milito, estas ame priskribitaj. Mi esperas, ke membroj de HEL, pre-
cipe tiuj, kiuj maskiĝis post la milito, legu ĝin.

Adreso de la eldonejo estas jena.

Internacia Kultura Laborejo: Hirai 6-30-3, Edogawa-ku, Tokio, 132
Japanio. Tel/Fax 03-3610-5882

Ne ĝenu vin aĉeti kaj legi!

(Informon pri la nuna vivo kaj la libroj de Iŭamura d-ro Ogura bonkore donis
al mi ĉiokaze.)

[切替英雄 Kirikae-Hideo]

要望 La sekretario postulas.

Heroldo de HEL. 42. aprilo-oktobro, 1992.の最終ページ(16)の「『アイヌ民族に
関する法律』(所謂アイヌ新法)(案)のエスベラント訳開始」の記事に「9月の北海
道大会の討議により、有志参加で進めることで了承されていたが(略)」とあるが、大
会には、有志ですることに了承を与える権利がないので、「9月の北海道大会の討議で
否決されたが、有志参加で進めることになったので(略)」ということとして読んでも
らいたい。また、執筆者と連絡先が明記されていないが、それではこの計画に責任がと
れない連盟が実行責任者・連絡先とみなされ不都合である。また、同じ号の星田委員長
による記事(1ページ)には、承認された案(サハリン友好)と否決された案(アイヌ
新法集団翻訳)が「具体的な共同の仕事として示された」とある。これは事実だが、承
認されたか否決されたかを示さずにこのように両提案を紹介するのは欺瞞である。連盟
は大会の信託に基づいて活動しているのだから、アイヌ新法の集団翻訳という事業その
ものには無関係である。しかし、この集団翻訳に関する記事が有志の責任により投稿さ
れることには問題はないと思う。なお、以上のことは、12月15日の第3回HEL委
員会で切替が主張した。

[切替英雄]

おめでとう 小坂清行氏

四国エスペラント連盟事務局長に就任

Gratulon! S-ro Kosaka-Kiyoyuki fariĝis Sekretario
de Ŝikoku Esperanto Ligo (ŜEL).

故川村信一郎博士を継ぎ、香川エスペラント会の会長を務められている小坂清行氏がこのたび四国エスペラント連盟 (ŜEL) の事務局長になられた。小坂氏はドイツ文学を専攻されている学究で、ドイツに3年間留学された経験がある。

私は、鳥取大学在任中、氏と2人で週1度の読書会を行っていた。ヨーロッパ文明を背景とした教養豊かで、高級なエス文は、氏の如きヨーロッパ文学の専門家でなくてはなかなか読み込めない。私は非常に啓発された。しかし氏にとっては、この読書会が時間の無駄になったのではないかと危惧している。

連盟事務局を預ることがいかに大変か、私は良く知っている。しかし、氏の穏やかな人柄のもと、四国エスペラント連盟がすくすくと育つことと信じている。氏は私宛ての手紙のなかで、(事務局長として)「私はあなたほどまじめではない」(原文エスペラント)と書かれているが、西の人がしばしば言葉に関して率直でないことを私はよく知っている。

なお、我が北海道エスペラント連盟は、香川エスペラント会に対し機関誌を42号から継続的に寄贈し、香川の皆さんとの交友を深めている。また、昨年5月には、個人的にはあるが、La Pontego: Organo de Kagaŭa Esperanto-Societo の創刊号をいただいている。

S-ro Kosaka-Kiyoyuki, kiu jam ŝuldigis sin per respondeco de la estro de Kagaŭa Esperanto-Societo sekvante la bedaŭratan d-ron Kawamura-Sin'icirō, fariĝis sekretario de Ŝikoku Esperanto Ligo (ŜEL). Li estas studanto de germana literaturo, kaj iam loĝis en Germanio tri jarojn por la studado.

Li kaj mi kunsidis unu-foje en ĉiu semajno por kunlegi esperantaĵojn. Estas tre malfacile por mi legi kaj kompreni lingvaĵojn, kiu estis verkitaj de klerplenaj kaj altnivelaj talentuloj eŭropaj baze de la eŭropa civilizacio. En Japanio nur tiuj profesiuloj de la eŭropa literaturo kiel li povas fari tion. En la kunsidoj mi estis tre klerigita de li ĉiam. Tamen mi bedaŭras kaj suspektas, ke por li mem ili estis nur enuaj.

Mi scias bone, ke sekretariado de loka ligo estas tre malfacila, ĉar mi ankaŭ estas sekretario. Tamen mi kredas, ke Ŝikoku Esperanto Ligo kreskiĝos bone dank'al lia milda homeco. Li skribis en privata letero al mi, ke pri sekretariado "... mi ne estas tiel serioza kiel vi estas." Tamen mi konas bone, ke la okcidentaj Japanoj foje ne estas sinceraj pri lingva esprimo.

Ni, Hokkajda Esperanto-Ligo, jam komencis donacadon de la organo Heroldo de HEL al Kagaŭa Esperanto-Societo. Kaj mi private ricevis la unuan numeron de la organo de la societo, La Pontego, fondita la lastan Majon.

[切替英雄 Kirikae-Hideo]

おめでとう ドイ・ヒロカズ氏、

土居智恵子氏 小坂狷二賞受賞

Gratulon! S-ro Doi-Hirokaz kaj S-ino Doi-Ĉieko ricevis La Premion Ossaka.

昨年8月30日、横浜エスペラント会のドイ・ヒロカズ氏と土居智恵子氏が小坂狷二賞を受賞しました。横浜エスペラント会の機関誌 la tantamo 11月号に掲載された日本エスペラント学会の西川豊蔵氏の言葉を転載して、祝辞にかえます。なお、1988年に札幌で日本エスペラント大会が開かれましたが、当時ドイ氏は、小西岳氏、菊島和子氏らとともに実行部隊である札幌エスペラント会を強力に援助してくださいました。

S-ro Doi-Hirokaz kaj s-ino Doi-Ĉieko de Jokohama Esperanto-Rondo ricevis La Premion Ossaka la 30-an de Aŭgusto, 1992. Ni reaperigas en nia Heroldo premiajn vortojn de s-ro Nisikawa-Toyozo, la ĉefdirektoro de Japana Esperanto-Instituto, kiuj aperis unue en la novembra numero de La Tantamo: La Organo de Jokohama Esperanto-Rondo, por gratuli ilin pro la premiigo. Cetere, kiam la Kongreso de Japanaj Esperantistoj okazis en Sapporo en la jaro 1988, s-ro Doi energie helpis kun s-ro Konisi-Gaku kaj f-ino Kikusima-Kazuko Sapporan Esperanto-Societon, kiu estis efektive la okaziganto de la kongreso.

[切替英雄 Kirikae-Hideo]

La Premio Ossaka

Japano Esperanto-Instituto honorigas per la Premio Ossaka en 1992
sinjoron Doi Hirokaz kaj sinjorinon Doi Ĉieko

Pro via flegado de Jokohama Esperanto-Rondo ekde ties fondo en 1968,

Pro via organizanteco de la Kongreso de Japanaj Esperantistoj, kaj en
Jokohamo kaj ekster ĝi,

Pro via verkado kaj publikigado, jen unuope jen duope, aŭ kun la membroj
de Jokohama Esperanto-Rondo, kulmininta en la informolibro 'Esperanto, la
lingvo de la tera epoko',

Kaj pro via redaktado kaj eldonado de la bulteno 'Esperanto en Azio'.

la 30an de aŭgusto, 1992

Nisikawa Toyozo [subskribo]

la ĉefdirektoro de Japana Esperanto-Instituto [kiel antaŭe]

訂正 Korekto

Heroldo de HEL 43号(前号)の小西岳氏に関する記事で小西氏のお名前を誤りました。また「京都の名門」は「関西の名門」の誤りです。さらに、Kansei Gakuin は Kwansei Gakuin の誤りです。申し訳ありませんでした。 [切替英雄]

前々号記事訂正

N-ro aprilo — oktobroの6ページ(56回大会報告)下段の手紙(詩?)について函館の S-r o 佐々木将人から訂正が寄せられました。あの原文で首をひねった方もあるかと思いますが第3連(5、6行目)は次のようになります。

Kial vi ne rezignas Esperanton?
Ĉar Esperanto estas agrabla instrumento.

(星田 淳)

Kontribuita eseo 投稿エッセイ

ŬATANABE Ŝindoŭ 渡辺 晋道 (Esperantano)

Mi alvenis al Itami-a flughaveno en Osako en somero. Mi deziris iri al Kioto. Oni povis iri al Kioto de tie per aŭtovoja buso aŭ subtera fervojo. Aŭtobuso povis veturigi facile kaj rapide, kiam la aŭtovojo ne svarmas per aŭtoj.

Mi demandis gvidistino de la flughaveno, kiel estas la aŭtovojo. Tuj kiam mi ekdemandis ŝin, "Ĉu aŭtovoja buso", ŝi respondis ne aŭskulte mian diron, "Per la aŭtomata vendilo vi povas aĉeti"

"Ne ne ne, mi ne petas bileton, sed deziras scii, ĉu aŭtoj svarmas sur la vojo, aŭ ne?" mi diris.

Kaj ŝi respondis, "Per la aŭtomata vendilo vi povas scii ..." Ŝi ne ridetis.

"Ho! Oni povas scii per la aŭtomato?"

"Jes." Ŝi ne ridetis ankoraŭ.

Eble ŝi ja aŭtomato, kiu nur prezentas aŭtomaton! Fi!

DEMANDO al REDAKTINTO

ŬATANABE Ŝindou (Esperantano)

Mi havas demandon pri skribaĵo en la lasta Heroldo de HEL.
La skribo troviĝas en la 11-a paĝo. Skribinto menciis, "日本の先住民であるアイヌの物語 ... "

Kompreneble Aina gento(民族) estas unu el gentoj en Japanio, kaj ili estas praloĝantoj(先住民) en Hokkajdo en moderna tempo.

Sed ŝajnas al mi, ke la skribinto deziris esprimi, ke Aina gento loĝiĝis en japana insulo pli frue ol Jamato-a gento. Mi miras pri la esprimo. Kaj mi petas respondon de redaktinto(編輯者).

Kaj mi havas alian demandon, de kiu epoko oni diferencigas praloĝantojn de lastaj loĝantoj(後住民)? Ĉu legantoj havas opinion?

編集者への質問

先のヘロルドの記事に質問があります。11ページにありますが、「日本の先住民である、、、」と、記者は述べています。

勿論、アイヌ民族は日本の民族の一つですし、現近代の北海道の先住民です。

しかし、私には、記者が「アイヌ民族は日本列島に大和民族よりも早く住みついた」と、言い表したいように思えます。この表現はおかしいと思います。編集者のお答えをお願いします。

別な疑問があります。どの時代をもって、先住民と後住民を分けるのでしょうか。読者の方、ご意見がありませんか。

?

編集者からの回答と読者へ意見募集

先号11頁で、「日本の先住民である……」と述べたのは、「北海道から沖縄までの、現在の日本国内全てにアイヌ民族が大和民族よりも早く住みついた」という意味ではなく、現在日本国内に、先住民として、日本文化とは異なる文化と言語を持つアイヌ民族が先住民としているという意味です（政府見解では、最近ようやく少数民族としては認定するようになってきましたが、まだ先住民族としては認定していないようですが……）。

「どの時代をもって、先住民と後住民を分けるのでしょうか」という疑問ですが、独自の文化を持って生活していたにもかかわらず、後から居住した民族によって迫害され、民族としての存続が脅かされて不利な立場に現在立たされている民族を「先住民」と私は考えているのですが、読者の皆さんはどう思いますか？

「先住民」問題や「アイヌ新法」等について、読者のご意見をお待ちします。

苫小牧 星田 淳

NEKROLOGO: S-ro WATANABE Takasi (1898. 5. 6 ~ 1993. 1. 9), nia pioniro ĉeestinta la 1-an Kongreson de HEL, forpasis ĉe sia nevino en Gubernio Ibaragi. Li eklernis Esperanton en 1928, JEI-anigis en 1929. Disvastigis Esperanton en Sapporo, Tomakomai, Toyama, Seattle, Mukden (nunna Ŝen'jang 沈陽), Muŝun kaj en Gubernio Fukui.

昨年のHEL 60年記念大会の際はメッセージをお願いしたが、「高齢のため無理」と御家族からの便りがあり、戴けなかった。

1929. 2. 26. 北大で開かれた札幌エスペラント会総会で苫小牧工業の教師だった S-ro 渡部が「学習半歳で25名を指導しています」と報告しているが、苫小牧で一番古いエスペラント運動の記録である。この後札幌、富山、福井等国内各地だけでなく、(旧) 満洲、シアトル (米国) でもその地の活動に参加し、エスペラントの普及に努められた。故人の姪 坂口富士誉さんからの文の一部を以下紹介させて戴く。

――叔父 隆志はかねてから白菊会に献体登録をいたしており自らの死に臨んでの願いとして

「無葬・献体・供物固辞

S-ro 渡部隆 (ただす) について、その他

Pri nia pioniro SAKAI Tadasu, k. a.

昨年の記念大会にメッセージを戴いた第1回大会参加者ですが、参加者名簿にこの名は見当りません。実は名簿にある S-ro 井上照月の本名です。現在島根県松江市に健在。なお狩田亮平氏は増田亮平氏が正しい (名簿、メッセージは N-ro aprilo ― oktobro 1992 の P2-5 に出ています)。(星田 淳)

絆のみここにとどめて逝かしめ給え」

を生前書き残しておりました

私どもは故人のその意志を尊重いたし皆様にはご連絡申し上げなかったこと何卒あしからずご了承のほどお願い申し上げます

――

なお故人が生前賜りましたいろいろのご厚情を深く感謝申し上げますとともに謹んで右ご報告申し上げます

敬 具

平成5年1月18日

喪 主 坂口 富士誉

外 親戚 一同

苫小牧エスペラント会のザメンホフ祭

La Zamenhofa Festo '92 en Tomakomai

日取りは'92年も押し詰まった26日になってしまった。18時からいつもの例会の場、公民館でこの1年を振り返っての総会。後は大町の津軽屋伊端に場を移して Amikiĝa bankedelo. 参加者5名。論文執筆中の S-ro 柴田の一家が見えなかったのが残念だったが、更に別の店をハシゴして語り合うなど、賑やかだった。(星田淳)

会費納入のお願い

Bonvolu pagi kotizon!

会計係 馬場 恵美子

会費のお支払いはもうお済みですか?

1993年が始まり北海道エスぺラント連盟も年度が改まります。会費は購読会員・会員共に2,000円(家族会員1,000円)です。支払方法としては、郵便振替(番号等は後記)・現金書留・北海道大会に持ち込み等があげられます。原則としては現金受領以外は領収証の発行は致しませんがその旨連絡をいただければ発行いたします。払込時期・複数年の支払や、家族分の払い込みなどの場合金額だけでは内容を判断しかねる場合もありますので何年度分か・人数・寄付(催促ではない...)などの内訳を明記願います。その際近況などを添えていただければ機関誌に掲載したいと思います。(転居等の連絡もお願いします。)

会員になることで機関誌 Herolde de HELの購読、毎年行われる合宿、通信講座による添削指導などのサービスを受けることが出来ます。

また今は活動を休まれているエスぺランティスト、会合をもたずにコツコツと学習を続けている方、学習途中で止めてしまった方などを連絡していただければ機関誌を送ります。(去る者は追わず、来る者は何人も暖かく迎え入れるがモットーです。)

今月号機関誌の宛名を見てお気づきになったと思いますが現在の会費状態を表示しました。

*例として

〒1215
北海道希望市夜明け1993

道産子 らざろ

様

道E連盟 ☆☆☆

の内容は

- ① 道E連盟 1992-1993(会費期限)
- ② 道E連盟 ☆☆☆(入会をお薦めします)
- ③ 道E連盟 ★★(会費が切れています)
- ④ 道E連盟 寄贈 (E会、マスコミ他)

郵便振替口座

小樽 0-17075

北海道エスぺラント連盟

会計係担当者住所

〒001

札幌市北区新琴似7条8丁目5番34号

馬場 恵美子

☎(011)761-8060 (夜9時以降)

ご協力よろしくお願いします。

☆☆ 近況報告 ☆☆

*妻、二男入院中でごぶさたしています。

その内レポートします。(函館市 岩井 正久)

Heroldo de HEL

第44号(1992.12.28)

北海道エスぺラント連盟機関紙
編集部

〒001 札幌市北区北12西1パークMS602

阿部映子気付 ☎011-756-2291

郵便振替口座 小樽0-17075

北海道エスぺラント連盟